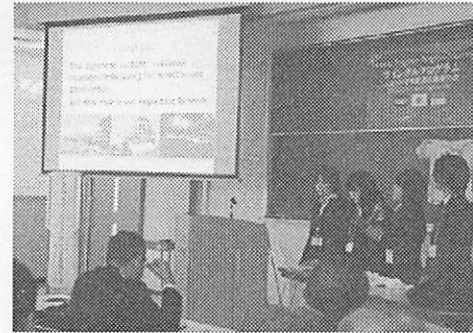


## ◆千葉大学◆

## 科学の教育活動、ツインクル学生派遣報告会



学生による英語での成果の発表



学生を中心に参加者による記念撮影

千葉大学は、平成24年度に大学の世界展開力強化事業として採択された「SENDプログラム」の平成24年度の総括として、3月16日に教育学部を会場に、ボゴール農科大学、バンドン工科大学、ガジャマダ大学、インドネシア大学、ウダヤナ大学の教員並びにインドネシアの中学校及び高等学校11校から教諭20名と外部評価委員4名(松田譲氏(経済同友会2012年度イノベーション・競争力強化戦略PT副委員長)、二宮

皓氏(放送大学副学長)、小原洋氏(朝日新聞千葉総局長)、大久保利宏氏(千葉県教育委員会教育振興部長)を参席のもと、「ツインクル学生派遣報告会」を開催。インドネシア、カンボジアの中学校及び高等学校において科学に関する教育活動を実施した39名(11グループ)の学生が、グループごとに英語での成果発表を行った。複数のグループが現地の学校では実習や実験を中心とした授業が望まれていること、日本という国について我々がより深く理解し、意見を表明できるようになる必要があるという課題を述べた一方

で、報告会に参加したインドネシアの各校の教員からは、「派遣国の社会問題や自然環境を考慮した授業テーマを選定している」、「実験を希望するのは、授業テーマに対して強い関心を持ったことと表れである」といった声が上がっており、今後のプログラム運営に積極的に関わっていきたいという高評価を得ることができ

## 〓千葉大学〓

## ミャンマー科学技術大臣が工学教育の現場を視察

3月5日、ミャンマー連邦共和国の科学技術大臣が千葉大学の西千葉キャンパスを訪れ、工学教育の現場を視察。工学部管理棟で北村工学部長から大学概要等の説明を受けた後、附属図書館としての機能に加え多様な学習コンテンツ等を提供するアカデミック・リンク・センターを渡邊副学長の案内で視察した。引き続き自然科学系の教育・研究の拠点である総合研究棟を訪れ、初めに、屋上の緑化デザインの研究について説明を受けた後、電気電子分野の研究室では3次元映像技術である電子ホログラフィの再生システムを見学し、情報画像分野では様々な視覚特性を持つ人間の「見え」のシミュレーション

についての研究内容の説明に熱心に耳を傾けた。続いて機械工学分野では、離陸から着陸までの完全自律飛行を実現し、人が立ち入らない場所での状況把握等への活用が期待される小型無人ヘリコプターのデモンストラーションを見学。大臣はヘリコプターに搭載した小型カメラとシンクロさせた特殊な機材を装着し、ヘリコプターから見た映像をリアルに体感されるなど、先進の技術・装置の開発に強い関心を寄せた。その後、齋藤学長をはじめ大学役員も交えて昼食の時間を持たれ、和やかに親交を深めた。視察には、科学技術省アドバイザー、ヤンゴン工科大学教授、駐日ミャンマー連邦共和国大使ほか10名が随行した。



ヘリコプターから見た映像を体感する大臣



齋藤学長から記念品を受ける大臣



前列左から北村工学部長、Ko Ko Oo大臣ら